

## 1. 単元（題材）名

第2章 古代までの日本 2節 日本列島の誕生と大陸との交流 1. 日本列島の誕生と縄文文化

2. 単元観 → 実際のレポートに記載する必要はありません。

本単元は、学習指導要領の歴史的分野の内容（2）「古代までの日本」における、（ア）「世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアの関わりなどを通して、世界各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。」に位置づけられる。人類の出現および進化の過程と約1万年前から6世紀までの我が国の成立過程を、特に東アジアと深いかかわりを持ちながら、農耕の広まりによる生活の変化、国家の形成と発展、天皇・貴族による政治の展開、文化の発展などの動きを学習していくことをねらいとしている。約400万年前にアフリカで誕生した人類は進化を継続し、生活する場を世界中に作った。地球が氷河期を終えると人類は文明を起し、国家を形成していった。我が国も縄文、弥生時代を経て各地域に邪馬台国のような小さな国が生まれた。その国々を統合し大和政権が誕生した。また、大陸との交流も行われており国家の基礎ができていった。このように本単元で学習する内容は、我が国の古代から今に続く文化について理解させる上での出発となる部分であり、今後の学習に興味・関心を持たせる上でも意義が大きいものであるといえる。

## 3. 研究とのかかわり

## ①思考力・判断力を高める課題設定の工夫について

（ア）課題を一方向的に提示するのではなく、課題を引き出すよう工夫する。

課題を生徒の間の中から引き出すようにする。これによって、課題に対して意欲を持つことができ、授業に対して集中して取り組むことができるため、思考力や判断力を高めることができる。

（イ）課題解決に向けて必要な「教具」を適切なタイミングで提示し、必要に応じて判断させる。

課題解決のために必要な資料など「教具」を適切に提示し、必要に応じて複数の教具の中から必要なものを判断させる時間を確保する。これによって、課題解決への見通しを持つことができる。

（ウ）課題解決に向けて、適切な「教具」を活用し、思考を深めさせる。

実物教材なども活用し視覚的・感覚的に訴えかけて、課題解決への意欲、関心を高めさせる。また、ペア学習や話し合い活動、まとめの文章の作成などを通じて、生徒の思考を深めさせる。

## ②教具の活用について

・課題提示の際には、パワーポイントで作成した、日本列島が大陸から切り離されて、現在の形になるまでのスライドを活用する。これにより、視覚的に生徒を引き付け、思考・判断を高めさせるためのきっかけとさせる。また、教科書、資料集は生徒にとっても一番身近な「教具」であり使いやすいものでもあるため、思考力・判断力を日常的に高めていくために最適なものであると考える。また、実物教材は、生徒の興味・関心・意欲を高めることにつながることを期待できる。その結果、授業への集中力が高まり、思考力や判断力も高まっていくと考えている。

#### 4. 単元の目標

<p>・国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとの関わり、古墳の広まり、大和政権による統一を通して捉えさせる。</p>			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>古代までの日本列島の人々の生活のあらましに対する関心を意欲的に追求している。</p>	<p>縄文時代と弥生時代のちがいについて考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>・小国のおこりから大和政権統一までの過程を、文献資料、古墳の分布、鉄剣などの資料を通して理解している。</p> <p>・金印や文献資料などから、古代の日本と中国をはじめとする東アジアとの関わりを捉えている。</p>	<p>・稲作が伝来した後の社会の仕組みや、人々の生活の変化を理解している。</p> <p>・東アジアとの関わり、古墳の広まり、大和政権による統一など、国家が形成されていったあらましを理解している。</p>

#### 5. 単元の指導計画と評価規準

	学習内容	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1	日本列島の誕生と縄文文化(本時)	様々な遺物や遺跡の発掘など、考古学の成果に関心を持っている。		様々な資料から、日本列島で狩猟、採集の生活を行っていた人々の生活の特色について捉える。	
2	弥生文化と邪馬台国	様々な遺物や遺跡などから、弥生時代の人々の生活に関心を持ち、意欲的に学習している。	中国の文献などから、国家が形成されていく過程について考察している。		
3	大王の時代			大和政権の国内統一の過程を、古墳の分布や鉄剣などの資料を通して、捉えている。	建物や遺跡などの具体的な資料を通して、古墳文化の特色を理解している。

#### 6. 本時の学習

##### (1) 本時の目標

- ① 様々な遺物や遺跡の発掘など、考古学の成果に関心を持っている。
- ② 様々な資料から、日本列島で狩猟、採集の生活を行っていた人々の生活の特色について捉える。

##### (2) 本時の評価

- ① B規準：様々な遺物や遺跡の発掘など考古学の成果に関心を持っている。

＜指導の手立て＞

実物教材の提示により、考古学の成果に興味・関心を持たせる。

- ② B規準：様々な資料から、日本列島で狩猟、採集の生活を行っていた人々の生活の特色について捉えることができたか。

＜指導の手立て＞

机間巡視の中で、いくつかのキーワードやヒントを与えて、思考の整理をうながす。

(3) 本時の展開

段階	時間	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導入	3	○確認テスト ・前時の学習を思い出して行う。 ・挙手による発表。	□ テストの配布。 □ 前時の授業を想起させる。 □ 発表者の指名。	
	2 5	○パワーポイント日本列島ができるまでのスライド視聴。 ○課題を考える。 (予想される解答例) ①いた ②狩りや採集をしていた、など ③生活の様子を調べる	□ パワーポイントの提示 □ 課題を引き出す発問 (発問例) ①人間がいたのかどうか。 ②どんな生活をしていたのか。 ③本時の課題を考えてみよう。	研究との関わり①- (イ) ② 評価① 研究との関わり①- (ア)
展開	<b>【課題例】</b> ・日本列島が誕生したころの生活の様子を考えよう。 ・日本に住み始めた人々の生活の様子を調べよう。 ・縄文時代の生活を調べよう。(など)			
	10	○年表形式にまとめる。	□どの教具を使用するかを尋ねる。 ここでは教科書の使用	評価① 研究との関わり①- (イ)
	7 8	○縄文時代の生活の様子を調べる。  ○調べたことを発表する。 縄文土器の使用 竪穴住居での生活 貝塚の利用・・・	□教具の選択 教科書と資料集の使用  □全体で発表。足りない部分があれば補足。適切なタイミングで実物教材(縄文土器)を提示する。	評価① 研究との関わり①- (ウ)
終末	10	○本日のまとめを各自で考える。	□予想される解答 ・日本列島ができたころは、日本でも打製石器を使って、狩り採集の生活が行われていた。 ・縄文時代では、縄文土器を使用して、たて穴住居で生活していた。 など	評価② 研究との関わり②
	5	○まとめを交流する。	□隣同士や前後で考えたまとめを交流したのち、全体で抽出生徒に発表させる。	評価②